

『中標津町史』・『中標津町五十年史』における殉公者に関する文章

『中標津町史』[1981（昭和56年）発行]

社会福祉編

第3章 社会福祉施設

第2節 生活保護と年金

戦没者・殉職者 (P987)

本町関係の戦没者は、その大半は太平洋戦争末期の戦死者で、現在の調べでは197名を数えている。殉職者は消防関係者2名で、本町の忠魂碑には199柱がまつられている。

これら戦没者および殉職者の追悼式は、昭和50年までは毎年9月7日に丸山公園の「殉公者の碑」前でとり行われてきたが、51年からは町公民館で、毎年8月中旬に町の主催で執行されている。



1961（昭和36）年の中標津町殉公者追悼式

産業史・農業編

第9章 凶荒災害の概況

第3節 戦後の凶作

昭和35年の融雪災害 (P585)

3月12日から降り出した大雨は、13日午後ようやく小やみとなり、夕刻やっと上ったが、町では降水量83ミリメートルを記録した。北海道農業試験場根室支場の調べによれば、3月中に降ったこの雨は、昭和5年3月14日の105.2ミリメートルに次ぐ実に29年ぶりのものであった。融雪期に加えてこの大雨は、町内の各河川を増水氾濫させ、とくに標津川においては、流域に孤立した町民の救援作業中、母子2人、救助隊消防士1名が川におし流されて死亡するという惨事まで引き起こした。また市街地、農村を問わず家屋の浸水による被害や道路の壊、橋の流失、被損等公共施設に受けた被害も予想外に大きいものがあった。



流失した東1条橋



増水したタワラマップ川

その被害の状況を示すとつぎのとおりである。

1 公共施設災害（家屋を除く）	21,165 千円
1、道路－路面流失1、欠かい1	250 千円
2、橋梁－流失4、大破5、小破7、落橋1	12,525 千円
3、暗渠－欠かい1	220 千円
4、河川－護岸欠かい3	7,200 千円
5、上水道－欠損1、浸水1	420 千円
6、その他－工事現場流失2	550 千円
2 家屋災害	4,100 千円
床上浸水42戸（内公共建物8戸）	2,100 千円
床下浸水200戸（内公共建物59戸）	2,000 千円
3 農畜産関係災害	2,485 千円
家畜・家禽（仔牛11頭・緬羊6頭・鶏80羽）	89 千円

牧草（乾牧草 9,000 貫）	225 千円
水産（さけ・ます捕獲設備）	70 千円
肥料（硫安 40 俵・加里 20 俵・過石 80 俵）	101 千円
農業倉庫（米・雑穀・肥料等貯蔵品）	2,000 千円
総額	27,750 千円

町は 3・13 融雪災害復旧対策本部を設置して善後処置に当たった。この年は、5 月～6 月が極めて天候が悪く、農試根室支場は長雨に対する対策を指示し、根室支庁も 6 月 13 日天候不順による農作業ならびに農作物対策協議会を中標津町役場で開催し、関係技術者による播種期遅延にともなう技術対策、農作物の管理対策、飼料不足対策等が討議された。幸いこの年は平常の収穫を上げることができた。

警察・消防編

第 2 章 消防体制の確立

第 4 節 災害発生の状況

35 年の融雪災害 (P1,035)

昭和 35 年 3 月 13 日の融雪災害は、「産業史・農業 編」第 9 章第 3 節でも記述しているが、降雨と融雪により洪水となり、標津川をはじめ町内各河川を氾濫させた。濁流に乗った流木は一条橋を流失させ、中標津中学校・同校教員住宅・保育園は床上浸水をみた。

河川の氾濫によって、標津川流域（中）の母子家庭が孤立したため、特別救助隊を編成し救助活動を行った。この作業中第一分団団員齊藤喜久男が濁流にのまれ殉職した。

齊藤消防士は二級特進して部長に昇格、3 月 17 日消防団葬の礼をもって、その霊を慰めたが、この災害に当たり消防庁長官等の表彰があった。

▽消防庁長官表彰 部長故齊藤喜久男・部長武田正三郎、▽北海道知事表彰第一分団・部長武田正三郎・団員青山勇・消防士長平野良一・消防士藤橋貞光、▽消防協会根室支部長表彰 消防団、▽中標津町長表彰 第一分団



救助時の様子

『中標津町五十年史』[1995（平成7）年発行]

社会福祉

第1章 社会福祉事業

第3節 児童福祉・母子福祉

戦没者・殉公者・遺族会（P745）

町における戦没者の大半は、太平洋戦争末期の戦死者である。57年（昭和32年）10月15日に丸山公園の中に戦没者の碑が建立されて199柱が祭られている。

全道各地域の遺族会結成の動きのなかで、48年（昭和23年）に町遺族会が結成された。会員は125人で会員の高齢化もあって発足当時よりは減少したものの、会員一同が団結して英霊顕彰や遺族の処遇改善の運動を進めているほか、戦没者の慰霊祭を続けている。毎年8月15日の町主催による殉公者追悼式をはじめ、北海道護国神社参拝を欠かさず行い、平和運動を進めている。

遺族会歴代会長

▽初代 西村末槌 ▽2代 白田潤一郎 ▽3代 船崎喜宣